



平成 29 年 5 月 12 日

各位

会社名 燦キャピタルマネージメント株式会社
代表者名 代表取締役社長 前田 健司
(コード番号：東証 JASDAQ2134)
問合せ先 取締役 経営企画室長 松本 一郎
(TEL. 06-6205-5611)
U R L <http://www.sun-capitalmanagement.co.jp>

業績予想と実績値との差異及び営業外費用並びに特別損失の計上に関するお知らせ

平成 29 年 3 月期決算（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）につきまして、平成 29 年 2 月 14 日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表しておりました業績予想と実績値に差異がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期 連結業績について

当社グループの平成 29 年 3 月期連結業績は、売上高 289 百万円（前年同期比 19%減）、営業損失 249 百万円（前年同期は 94 百万円の営業損失）、経常損失 322 百万円（前年同期は 157 百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純損失 1,008 百万円（前年同期は 193 百万円の当期純損失）となりました。

(単位：百万円)

	平成 28 年 3 月期 実績	平成 29 年 3 月期 実績	前年同期比(%)
売上高	357	289	△19.0%
営業利益	△94	△249	—
経常利益	△157	△322	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△193	△1,008	—
1 株当たり当期純利益 (円)	△15.40	△49.34	—



2. 前回業績予想と実績値の差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 28 年 2 月 14 日)	283	△239	△266	△277	円 銭 △16.26
今回実績値 (B) (平成 29 年 3 月期)	289	△249	△322	△1,008	円 銭 △49.34
増減額 (B-A)	6	△10	△56	△731	—
増減率 (%)	2.1	—	—	—	—

3. 差異の理由

- (1) 売上高につきましては、平成 28 年 3 月期に当社保有の投資不動産 5 物件を売却したことにより賃料収入が減少したこと、天候等の自然災害による鳥取カントリー倶楽部の売上高が減少したこと、インバウンド向け宿泊関連事業として取組んだ宿坊施設の開発・運営事業でのアレンジメント・サービス業務において、見込んでいたアレンジメント報酬及び当該事業のために設立した SPV (不動産ファンド等の特別目的事業体) のエグジット時のキャピタルゲイン報酬を計上出来なかったこと、一方、当期後半から取組んだ販売用不動産投資事業において 1 件成約したこと及び平成 28 年 11 月に海外のエネルギー関連事業会社 SUN GREEN POWER ENERGY PTE.LTD. (以下、「SGPE 社」といいます。) を当社連結子会社にしたことによる売上高を計上したこと等が主な要因で、前年同期と比べ、19%減少しております。
- (2) 営業利益につきましては、上記売上高の減少に加え、当社新体制構築による人件費、東京支店開設及び新規海外事業に係る費用、旅費交通費等の販管費が増加したこと、海外子会社の買収に係る費用が発生したこと、SGPE 社の売上原価及び販管費を計上したこと、資本金の増加による外形標準課税が増加したこと等が主な要因で、今回の業績数値となりました。
- (3) 経常利益につきましては、上記に加え、当社が実施した第三者割当増資に係る発行費用等が発生したこと、SGPE 社における海外事業会社への貸付金に対し貸倒引当金を計上したこと等が主な要因で、今回の業績数値となりました。
- (4) 親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記に加え、SGPE 社の取得に係るのれんの評価の見直しによる減損損失、NQ 屋台街有限責任事業組合の評価見直しによる減損損失、国内事業会社に対する債権の引当金、SGPE 社保有の海外事業会社の株式評価損を特別損失として計上したこと等が主な要因で、今回の業績数値となりました。

※営業外費用及び特別損失につきまして次のとおりです。



4. 営業外費用及び特別損失の計上について

(1) 営業外費用について

(連結) SGPE 社における海外事業会社への貸付金 50 百万円に対し貸倒引当金を計上いたしました。

(2) 特別損失について

(連結) SGPE 社保有の海外事業会社の株式評価損 38 百万円、NQ 屋台街有限責任事業組合の評価見直しによる減損損失 35 百万円を特別損失として計上いたしました。

(個別) SGPE 社の取得に係るのれんの評価の見直しによる減損損失 556 百万円、国内事業会社に対する債権の引当金 50 百万円を特別損失として計上いたしました。

※なお、SGPE 社の取得に係るのれんの評価につきましては、当初取得時に、企業価値算定に用いた事業計画書に基づいた事業の進捗に遅れが生じていることについて、会計上の評価替えが必要であるとの監査法人の指摘を受けて見直しを行ったものであり、当社といたしましては、現時点において、SGPE 社が行うエネルギー関連事業の事業性及び将来性についての評価を変えたものではありません。

以上

《平成 30 年 3 月期 連結業績予想》

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
通期	515	57	53	46	円 銭 1.22

(コメント)

① 国内不動産事業におきましては、前期に東京支店を開設したことにより、関西圏のみならず首都圏での情報収集が行える状況となったことを活かし、インバウンド向け宿泊関連事業及び資産運用向け販売用不動産事業において、今期以降、収益に寄与する見込みであります。

また、鳥取カントリー倶楽部につきましては、本年が開業 40 周年にあたり、周年に絡めた営業を強化し、売上高及び営業利益の増加を目指して参ります。

なお、クリーンエネルギー事業におきましては、前期子会社化した SGPE 社を中心に国内外のクリーンエネルギー事業に投資を進めておりますが、本格的に収益に貢献するのは来期以降となる見込みです。将来的に当社の収益の柱とすべく、鋭意投資を進めて参ります。

② 当社グループとしましては、前期に 2 回の第三者割当増資を実施し、財政的にはかなり安定した状況にはなりましたが、今期は、通期収益の黒字化及びゴーイングコンサーン（継続企業



Sun Capital Management Corp.
燦キャピタルマネージメント株式会社

の前提に関する重要事象等) の疑義の解消を最大の目標として、全社、役職員一同全力で取り組んで参ります。

※本資料に掲載されている業績予想及び業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。